



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：国内経済及びエネルギー関連 (2月1-15日イラン・ニュース他取り纏め)

1. 1月のインフレ率

イラン中央銀行バフマーニ総裁は、イスラム暦本年1月末までの1年間のインフレ率が24%ととなり、前年12月末までのインフレ率である26.4%と比べて低下したと発言した。

2. 10億ドルの使途不明

06年予算の実績が議会の予算計画委員会に提出されたが、このうち10億ドルが使途不明となっており、国庫に納入されていないとしてラリジャニ国会議長は、会計検査院に調査を依頼。

3. メラット銀行の民営化とマレーシア支店の開設

メラット銀行総裁は、約77.5百万ドル相当の同社株式が、2月18日、テヘラン証券取引所に上場される予定であると発言した。マレーシア国営通信は、マレーシア外務大臣の発言として、Labuan にメラット銀行の支店が開設され、メラット銀行が営業許可を得ることを承認した。また民営化にともなって、40%の株式が、justice share として貧困層に分配されるとのこと（一部報道には、すでに30州、450万人に8万株が割り当てられたとされる）。

4. 海外からの投資動向について

イラン投資経済技術支援機構のアリアバディ顧問は、イランが08年3月から現在までに3億ドルの投資を海外から受けており、本年末までに投資額は6億ドルに達する見込みであると発言。なお報道によれば、2007年海外からの投資額は102億ドルであり、2005年の42億ドルに比べて大幅に増大しているという。なお海外からの投資を受けた80のプロジェクトのうち、40のプロジェクトが中国を中心とするアジア企業によるものとされている。

5. イラクとの第1回合同委員会開催

11日、イラン・イラク合同委員会の第1回会合が開催された。イラン側の代表はモッタキ首相。イラク側はマーリキー首相。

6. GCC 諸国との自由貿易

商業相はペルシャ湾岸諸国との自由貿易を承認した。これにより、湾岸諸国との貿易における関税は最小限に抑えられる見通し。

7. オマーンとイランが石油ガス田の共同開発

オマーンとイランは今後 5 年間に 100 億ドル以上をかけてキーシュガス田及びハンガム共同油田を共同開発するとともに、石油、ガス、観光、農業、人材育成、海運等の分野で協力すると合同委員会で協議した。なおすでに共同で所有するブッカ西部のガス田開発については近々ガスの輸送を試験的に開始する見込みとなった。同ガス田の開発は、インドネシアの Medco Energi、韓国 LG、カナダの Heritage Oil からなる国際コンソーシアムが担当した。

8. イラン海上石油会社が新規油田を発見

イラン海上石油会社総裁は、ペルシャ湾のファルシ油田内に新たな油田を発見したと発言した。同総裁によれば、10 億バレル以上の生産ができる可能性もあるとのこと。

9. アサルイニ石化複合施設開所

アフマディネジャード大統領は、アサルイエで Jam 石化複合施設開所式に出席。同施設は 132 万トンのエチレン生産能力を有した世界最大のエチレン生産設備である。30.6 万トンのプロピレン、60 万トンのポリエチレン、30 万トンのポリプロピレンを生産する能力を有する。

10. バンダルアッバス製油所プロジェクトの完了式典

ノーザリ石油大臣は、革命記念に関連して、バンダルアッバスの製油所の能力増強完了の式典に出席した。本プロジェクトにより、同製油所は、23 万バレルから 32 万バレルに増強。また同式典と同時に、ラバン製油所計画の竣工式典も実施された。同プロジェクトにより日量 220 トンの液化ガスの生産能力を構築する予定。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799